

親鸞聖人が常陸国で最初に開いた草庵と伝えられる

小島草庵跡

おじまのそうあんあと

建保二(一一二四)年、親鸞聖人は常陸国下妻の小島にて庵を構え、ここに三年間逗留されたといわれる。現在は旧跡を示す石碑と、聖人お手植えと伝わる大銀杏が枝を広げ、往時を偲ぼせる。

親鸞聖人の関東における行実

永禄十一(一五六八)年、顕誓がまとめた『反故裏書』によれば、「常陸国下妻の三月寺小嶋に三年ばかり、同じく稲田郡に十年ばかり御座をなされぬ。(中略)そののち相模国足下郡江津の眞樂寺、又鎌倉にも居し給ふとなり」と聖人の所在が記され、関東でのご教化がこの地か



大銀杏 稲田恋しの銀杏

ら始まったことがうかがえる。常陸国下妻に來られた理由は定かでは

ないが、江戸中期編纂の『高田絵伝撮要』では、下野の守護・小山氏が、かつて京都吉水の法然聖人のもとへ参詣した折に、親鸞聖人とも対面し往生道の教示を受けたことがあったといい、その縁で小山氏の一族である下妻氏が招いたという。また、江戸後期に了貞が著した『二十四輩順拝図会』によると、親鸞聖人は小島郡司武弘の招請を受けて移住してきたといわれる。

かつては「三皇院」のちに「三月寺」

小島草庵のあった場所は、もともと聖人が来る以前から、欽明天皇、用明天皇、聖徳太子の墓を守る「三皇院」という寺があった。今でも大銀杏の後ろにはこれら三皇の墓石と、後に加えられた親鸞聖人の墓石とが並び合わせて四体仏が並んでいる。

小島草庵は、聖人が去った後を常隨の

弟子蓮位が引き継ぎ、「三月寺」とも呼ばれていた。

恵信尼公の夢

聖人の妻・恵信尼は、下妻の「さかいの郷と申すところ」で、夫・親鸞が観音菩薩の化身だと感得する夢をみたと『恵信尼消息』に記している。その夢は、堂供養で二体の仏が掛けられ、光り輝く仏は勢至菩薩で法然聖人のことであり、もう一つは観音菩薩で善信の御房(親鸞聖人)だと聞かされたという夢である。法然聖人が勢至菩薩だという話をする、それは本当のことだと親鸞聖人は答えたという。それ以上の話はしなかったものの、以来恵信尼は、心の中で親鸞聖人を観音菩薩と想ってきたと打ち明けている。夢を見た場所は現在、小島草庵から北東三キロほど離れた坂井という地にある千勝神社のあたりともいわれている。

アクセス情報

- 茨城県下妻市小島
- 関東鉄道常総線下妻駅から徒歩18分。
- 常磐自動車道谷和原ICを出て、国道294号線常総バイパスを北に約20キロ、大園木交差点を左折して約2.5キロ、宗道十字路交差点を右折。約1キロ先のスーパー手前の交差点を右折し、約1キロ先



四体仏

※蓮位 蓮位は聖人に常に仕えその臨終まで看取った門弟である。『御伝抄』には、蓮位が親鸞聖人は阿弥陀如来の化身であるとの夢を見たことが記されている。

